

学校給食が全国的に普及したのは、戦後の食糧難の時代であり、児童・生徒の飢餓、栄養失調を救った。今では、日本の小中学生のうち学校給食実施率93.2%（平成4年度）という。現代は、飽食の時代であり、学校給食の役割は終わったという論が出ているが、それでもなお学校給食には、重要な役割があるという論もある。まずは、それぞれの立場から学校給食について考えてみよう。

## 給食の役割は終わった派

例えば、埼玉県北葛飾郡庄和町は、小中学校の給食を全廃する方針を平成4年に打ち出した。これは、町のPTA連絡協議会などの反対により、白紙撤回となるに至ったが、給食全廃の動きは全国に波紋を投げかけた。学校給食に対しての疑問の数々をあげると…

- ・「食」という人間にとって最も本能的かつ個性的性格を持つ行為を集団で画一的に行っているのか？例えば、昔よく「三角食べ」と言われたが、子どもの中には、口の中で混ぜるのが気持ち悪いという子もいる。まして、外国では、コース料理で、一品ずつ食べる国もある。また、日本では、行儀が悪いといわれるが、立て膝で食べたり、手づかみ食べてる国もある。国によっていろいろな文化があり、食事の指導は、一概に、画一的にはしにくいのではないか。
- ・給食の内容の組み合わせが、日本の食文化に照らし合わせても、不可解なものがある。（例えばご飯と牛乳など）
- ・安い予算や、給食調理員の手間を考え、内容は限られたものになりがち。つまり、安くて、簡単に大量に作るものになってくる。また、購入する食材も大量に必要なので、一般市場に影響ない食材に限らるそう。
- ・給食は弁当に比べ、配膳に時間がかかり、食べる時間が少ない。「はよ、しい。」「残したらあかん。」で、苦痛の子も多い。
- ・教室で、ほこりやチョークの粉に紛れながらの給食。とても落ち着いて食事をするムードではない。
- ・本来、食事指導は、家庭教育に属するのではないかという声もある。
- ・教師の本音を言えば、昼食ぐらい、子どもの指導から離れて、ゆっくり食べたいというのが、本当であろう。

## 給食には重要な役割がある派

文部省は、平成4年7月、8年ぶりに「学校給食の手引き」を改訂し、学校給食の意義役割を次の4点にまとめた。

- ①栄養のバランスのとれた豊かな学校給食
- ②望ましい食習慣を形成する学校給食
- ③人間関係を豊かにする学校給食
- ④多様な教育効果のある学校給食

このように、現代の学校給食は、児童・生徒の健康を維持するための栄養補給が目的のみならず、その教育的意義が一層問われるものになっている。例えば、④では、5年の社会で学習する産業のことを給食に当てはめて考えることもできるという。（どこから材料が来て、どう運ばれて…）②では「飽食の時代」だからこそ給食を通して食生活を見直し、家庭へ返していこうというのだ。そして、なんといっても、親の立場から見れば、弁当作りは大変である。共働きが増えてきた昨今、学校給食を望むのは当然である。

## こんなになったらいいなあ

給食は数々の問題も抱えるが、現状ではなくすもの無理であろう。

では、こんな給食はどうだろう。

ほこりとチョークの舞う教室はなくて、落ち着いた壁紙も張って静かな音楽が流れるランチルーム。席は円や四角のテーブルがいくつもあってセルフサービス。本当の食文化を教えるのなら、「今日は和食の日」「フランス料理の日」「インド料理の日」「韓国料理の日」…なんていう日いろいろあって、「和食の日」は、箸でいただき、季節に合わせて、タケノコご飯とか、旬のメニューで。時にはお寿司やおうどんも。飲み物はお茶。お皿はホリプロピレンやアルマイトでなしに、お料理に合わせたもので、有田焼や伊万里焼とかの陶器で。「フランス料理の日」はナイフ、フォークで。食べ方ももちろん指導します。メニューには、ビーフストロガノフなんかも出てきて、デザートもつきます。「インド料理」では、ナンをちぎってカレーをのせて手でいただきます。メニューもAコースBコースぐらに分かれて、自分の好みに合わせて量を加減して取ります。

地域によってはこんなことが少しずつ入り入れられている所もあるようだ。ちょっと夢のようだけれど、こんな給食になったら、毎日、お昼が楽しみになると思いませんか？

参考）同時代子ども研究一卷「食べる飲む」新曜社